

一般会計税収（2016年4月末時点）

発表日：2016年6月2日（木）

～今後の「税収上振れ」は期待薄、財源確保は難航か～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 星野 卓也
TEL:03-5221-4547

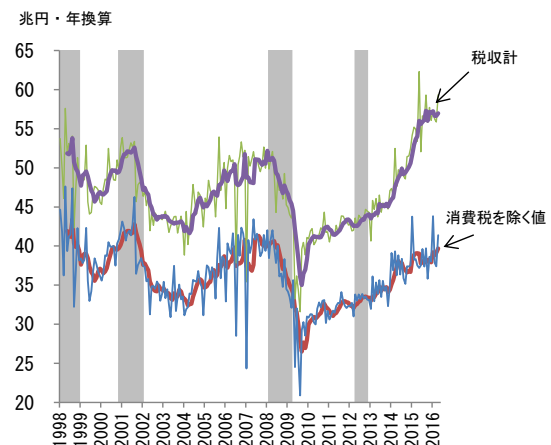
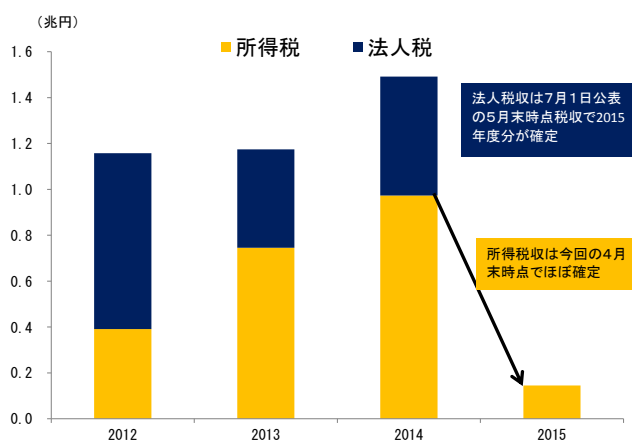
所得税の「税収上振れ額」が鈍化、「社会保障充実策」・「秋の経済対策」の財源確保は難航か

6月1日に4月末時点の2015年度一般会計税収が公表された。注目されるのは所得税。今回の公表で2015年度分の所得税収額がほぼ確定するためだ。4月末累計の所得税は17.7兆円となっている。税収の決算額は、予算からの上振れ・下振れ額が注目される。それが例年補正予算の財源として活用されているためだ。補正後予算時点からの乖離額をみると+0.14兆円の上振れとなっている。最終的な決算時点では+0.2兆円程度の上振れとなろうⁱ。

この+0.2兆円という額についてだが、過去の上振れ額と比較すると明らかに鈍化している。2013年度は0.75兆円、14年度は0.97兆円の所得税の上振れが発生、これが純剰余金として翌年度補正予算の財源となっていた。法人税の確定額は来月公表のデータを待つ必要があるが、参考までに4月末時点の進捗割合（確定した税収/予算額）を過去と比較すると、13年度：56.7%、14年度：62.3%に対して15年度は54.3%と低くなっている。法人税収の上振れについても期待薄ではないか。

こうした動きは、年初来の円高・株安を受けた所得・法人税の増勢鈍化を示唆している可能性が高い。今回局面での税収上振れ額は、秋にも編成が予定されている第二次補正予算の財源としての役割のみでなく、消費税率引き上げの先送りによって穴の空いた「社会保障充実策」の財源としても期待されている。財源候補はほかに、秋の税収見込みの再計算によって生じる2016年度税収の上振れ額がある。これも市場環境に改善が見られない場合、大幅な上振れは期待できないだろう。その他、財源候補として国債費の不用額があるが、これは既に第一次補正予算で0.8兆円が計上されており、秋の時点で確保できる財源は多く見積もっても1兆円強程度と考えている。市場では秋の経済対策として5～10兆円の規模が見込まれている。この編成には追加国債の発行や、何らかの形で税外収入を確保する必要が生じる公算が大きいだらう。

資料1. 所得・法人税収の上振れ額（決算—補正後予算） 資料2. 税収（季節調整値）の推移



（資料1・2出所）財務省「租税及び印紙収入、収入額調」（資料1注）2015年度の「所得税」は2016.4月末時点。（資料2注）季節調整は第一生命経済研究所。太線は5ヶ月移動平均。税収は4月～翌年5月までで1年度分が徴収され、4・5月は当年度分・前年度分の税収が入る。グラフ上ではその合算額をプロット。

ⁱ 例年、5月にも700億円前後の所得税収が入るがこれは年度分全体の約0.4%に過ぎず、今回の公表で2015年度分の所得税収額は概ね明らかになる。これに対して、法人税収は5月に年度分のおよそ4割程度が入るため、次回7月1日公表の5月末時点統計まで全容はわからない。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。